

桜満開!!! 佐保川桜祭り

第14回佐保川わいわい桜祭りは、4月2日(土)予定通り開催されました。丁度この日に合わせるかのように、奈良地方気象台が満開宣言。佐保川の両岸は多くの花見客で賑わい、水辺の楽校での演奏会、運動場で各種出し物、各種の食品バザーなど、多彩な催しがあり、例年になく盛り上がりました。

当会からは、今年で3回目の出店参加をしました。三種の食品バザー“唐揚げ”“チューロス”“玉蒟蒻”、そして“ぶじかえる”“災いをさる”“ふくろう”“えんぴつくん”などの自然木クラフト、さらに“椎茸ホダ木”の販売と、多彩なジャンルでの協賛を行いました。食品バザーは開店と同時に、店の前には30人以上の列が途切れることなく続きました。中でも“唐揚げ”は人気商品で、約40kgの鶏肉を揚げるのに、足らなくなった油の買い付けにスーパーへ二度三度と仕入れに行く忙しさ。“チューロス”なども全て完売しました。



一方、クラフトでは、“ぶじかえる”“災いをさる”と名付けたストラップが好評で、

見本を見ながら手際よく製作に励み、最後に動く眼をくっつけて完成した時、どの子どもにも満面の笑み。「ヤッター」という声こそ出さないものの、達成感に満ち溢れた表情でした。でき上がった“ストラップ”を得意気にお父さんやお母さんに見せると、“良いのが出来たね”との親子間での会話が弾む光景をいくつも目の当たりにし、今後のイベントなどで、どのように取り組めば良いのか多くのヒントを得ました。

終わりにりましたが、総勢18名もの多くの会員の皆様方にご参加をいただき、ブースを訪れていただいた仲川奈良市長様初め市民の皆様方との交流、また当会のPRなどにご尽力いただきましたことにお礼を申し上げます。(鈴木末一)

鳥シリーズ 4月号 シジュウカラの会話 文法がある? 小田 久美子

先日、新聞やテレビで報じられたのでご存知の方も多いかと思いますが、総合研究大学院大学の鈴木俊貴研究員さんの、10年にわたるシジュウカラを観察した報告が大変話題になっています。

親鳥が「ジャー ジャー(蛇だ!)」と鳴くと、ヒナは中には危険だと巣から飛び出します。又「チカチカ(カラスだ!)」と鳴くと、ヒナはじっとしている方が良いと考え巣の中に蹲って動きません。タカだと「スイー(タカだ!)」と鳴き声を変える。ヒナも親鳥の鳴き声を理解しているというのです。「ピーッピ(危険を知らせる)」「ヂヂヂヂ(仲間を呼ぶ)」を組み合わせ、「皆んなで敵を追い払おう!」と会話しているのだそうです。これを逆転させて「ヂヂヂヂ・ピーッピ」という声を聞かせても内容は通じないのです。求愛には「ツツピー」。威嚇には「シャー」。(ヂヂヂヂはエサを見つけた時仲間を呼ぶのにも使います)。

15程の鳴き声(単語)と175程の組み合わせ(文章)を持ち、単語だけではなく文法規則に従って使いこなし意味を解読するのは、今のところ人間以外ではシジュウカラのみだというのです。

シジュウカラは14cmのスズメ大の小鳥で、小指の先程の脳なのに本当に驚きですね。



我が家の冬限定の餌台(素麺の箱)に来るシジュウカラは、私たちの姿を見ると近くの枝で「ヂヂヂヂ」と鳴いて待っています。早はヒマワリの種を啜って台の回りに脚をかけ、尾羽根を台につっぱり三点で支えて種を割っています。